

野草観察

開花日数

花が開いている日数はその種類により異なります。カタバミやツユクサなどは朝に花を咲かせて昼頃にはしぼみます。セイヨウタンポポは朝に咲いて午後には花を閉じ、翌朝また花を開きます。これを2～3日繰り返します。



カタバミ



ツユクサ



セイヨウタンポポ

この時期(5月)、多くの花が開花の時期を迎えています。それらの中から、隣接し合って次々と花を咲かせ、開いている日数が2日以上、夜も開いている2種（ヒルザキツキミソウとムシトリナデシコ）について、開花の観察記録を紹介します。



ヒルザキツキミソウ



ムシトリナデシコ

1. ヒルザキツキミソウ

北アメリカ原産の帰化植物で、大正末期ごろ観賞用として渡来し、道端などに野生化しています。花は淡紅色又は白色で直径5cmほど。夜だけではなく昼間も花を開いていて、ツキミソウに似ていることからこの名があります。花期は5～7月です。

別株の花2個について観察しました。

ケース1：観察時期 令和元(2019)年5月16日～19日

16日早朝に開き、19日昼前にはしぼみ、開花日数は4日でした。

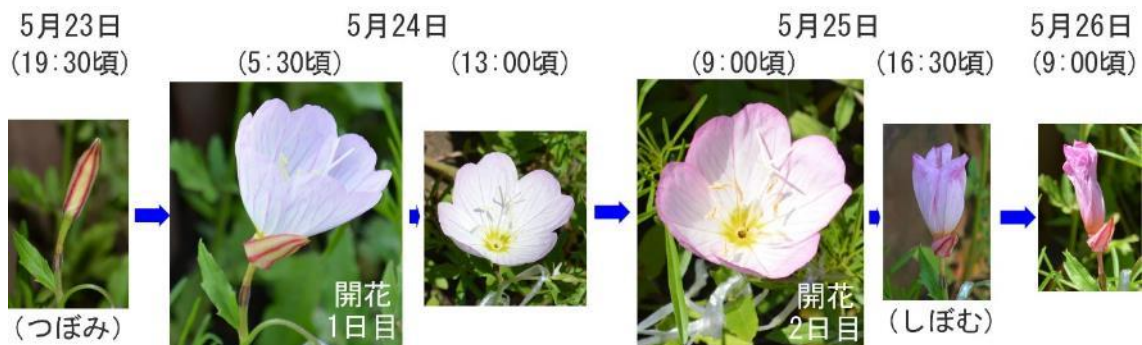
この4日間、花びらの色に顕著な変化はありませんでした。



ケース 2：観察時期 令和元(2019)年 5 月 23 日～26 日

24 日早朝に開き、25 日午後にしぼみ、開花日数は 2 日でした。

花びらの色は、開花直後は白っぽくて、徐々に淡い桃色に変化していきました。



2. ムシトリナデシコ

ムシトリナデシコはヨーロッパ原産の帰化植物です。江戸時代に鑑賞用として導入されましたが、現在では道端や空地などで見かけることがあります。花の下の茎の部分から粘液を出し、虫がくっつくことからこの名があります。

花は直径 1 cm ほどで、花びらは 5 個、花弁の基部には 2 個ずつの突起状の鱗片がついています。雄しべ 10 個、雌しべの花柱は 3 個あります。花期は 5～6 月です。



観察時期：令和元(2019)年 5 月 31 日～6 月 9 日（撮影時刻は 9:15 頃）

8 日は朝から降雨のため、残念ながら写真は撮れませんでした。

観察対象：1 本の枝先に咲いた花の中から 3 個を選びました。

咲いてくる花の数が想像以上の多さで、観察対象の特定に苦労しました。

観察対象①

6 月 1 日朝に開き、4 日午後にしぼみ、開花日数は 4 日でした。

観察対象②

2 日朝に開き、8 日午後にしぼみ、開花日数は 7 日でした。

観察対象③

3 日朝に開き、8 日朝にはしぼんでおり、開花日数は 5 日でした。

